



学校だより

12月号 令和5年11月30日
足立区立舎人第一小学校
校長 澁谷あゆみ

「もっとしてほしい!とねいち教室のこと」

とねいち教室担当 人見 真未

子育てを始めてまだ数年の私ですが、子供が成長するに連れて困り感が様々見え始め、その対応に悩むことがあります。そんな中、子育ての先輩である保護者の方々のお子さんへの工夫に気付かされることが多くあります。

例えば、着替えが好きではない子の体操着の隅に好きなキャラクターを描いてあげたり、忘れ物が多い子のランドセルのふたの裏に「〇〇を持ち帰ってきてね」とかわいいメッセージが貼ってあったりなどです。そんな愛情あふれる工夫に助けられて子供たちが安心して生活できていることを目の当たりにしました。その工夫に至るまでに試行錯誤もあったと思いますが、苦手なうまくできないことに対して叱るのではなく、プラスの働きをすること。私も心がけています。

とねいち教室でも、子供たちの困っていることに寄り添ってお手伝いができればと、日々考えて指導にあたっています。例えば、漢字を書いて練習することで覚えにくい児童には、唱えて覚える学習法と一緒に練習することがあります。また、コミュニケーションが苦手な児童に対しては、困難さを感じそうな場面を絵カードで想起させて、一緒に対応の仕方を考えたり、自分の怒りスイッチがどこにあるのかを考えさせたり、どのくらいの怒りなのかを数値化をさせたりして自己理解を促しています。

とねいち教室が始まって今年度で7年が経ちますが、便利な道具も普及してきました。例えば、音に過敏な児童が音楽の授業等でイヤーマフを付けたり、書くことを苦手とする児童がタブレットを利用してノートの代わりにしたりなどです。他にも、姿勢を保持しやすいクッションや、教科書の読み上げをしてくれるアプリ、テストの拡大印刷版などがあり、必要に応じて利用を促しています。

しかしながら、まだ、周囲の目が気になってしまい利用を躊躇する児童もいます。視力が低い児童が眼鏡を利用するのと同じように、誰もが自分にとって必要な道具を利用してスムーズに学習や生活ができるように働きかけていきます。

お子さんから、クラスで学ぶためにひと工夫をしている友達について耳にすることがありましたら、その時にはぜひご家庭でも温かな言葉を返していただけたらありがたいです。周囲の理解や、温かい声かけに支えられて、子供たちは安心して、自信をもって学校で過ごすことができます。

また、もし困り感のご相談がありましたら、とねいち教室の他にも、学校であればスクールカウンセラーが火曜日・金曜日に来校しているので電話で予約ができます。また、足立区ではペアレント・メンター（発達障がい特性のある子の育児経験がある保護者の方）制度もあり、直接子育てに関する相談をすることもできます。ご興味がある方は、ぜひご相談ください。